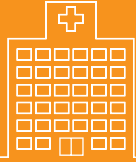


八鹿病院 ニュース



2016年

10月号

地域に暮らす人々と共に
心あたたかな医療をすすめたい



● yoka hospital 「医療」

歯科口腔外科

- 井上美希さんエクアドル派遣
- トピックス・職員募集
- 医師修学資金貸与制度

公立八鹿病院基本理念

私たちは、地域中核病院として、医の倫理を基本に、質の高い医療と優れたサービスをもって、住民の健康を守り、地域の発展に尽くします。



当院は敷地内全面禁煙です。
ご協力宜しくお願いいたします

歯科口腔外科



歯科口腔外科での誤嚥性肺炎予防への取組

誤嚥性肺炎は、口の中の細菌が肺まで到達して炎症を引き起こすことで発症します。脳梗塞などの脳血管障害、パーキンソン病、ALSなどの神経難病、嚥下機能の低下した高齢者などに多く、死亡原因の一つにもあげられます。

昨年度より但馬地域では誤嚥性肺炎で入院され、退院された患者さんが肺炎を繰り返さないため、入院中に専門的口腔ケアの介入や退院後に訪問歯科診療所へ紹介するシステムを導入しました。

八鹿病院でも誤嚥性肺炎で入院された患者さんを口腔外科に紹介していただき、専門的な口腔ケアを行い退院の際には協力歯科医院へ紹介を行い、往診で口腔ケアをしていただいています。

この取り組みにより、在宅・施設でも歯科の介入が途切れないことで誤嚥性肺炎の再燃予防を期待しています。

また、歯周病でぐらぐらに開いたり根だけになってしまった歯をそのままにしていたりすること、合わなくなったり汚くなった入れ歯を使い続けることも普段の口腔ケアで汚れを取りきることを難しくしますので潜在的な誤嚥性肺炎のリスク要因となります。なので普段から掃除しやすい環境を保つために定期的にかかりつけ歯科への受診をしていただくと思いをします。





誤嚥性肺炎による入退院を

繰り返さない・治療が途切れない

ための地域との連携

病院(歯科口腔外科のある病院)における歯科医療・専門的口腔ケア等の提供

入院時

誤嚥性肺炎となった患者の入院

1 他科主治医・病棟看護師からの紹介

2 歯科口腔外科へ依頼



入院中

3 歯科口腔外科の対応(病棟または外来)
・歯科医師による口腔内検診(必要に応じて治療)
・歯科衛生士による専門的口腔ケアの介入



退院時

4 他科主治医・病棟看護師から歯科口腔外科へ連絡

5 地域の歯科診療所への紹介・調整

6 退院カンファレンス等への参加
(院内の歯科医師・歯科衛生士)

7 ソーシャルワーカーが
訪問歯科診療所への
連絡調整・情報提供

7 【必要に応じた対応】
訪問歯科衛生士指導の実施



訪問歯科の サービス等

(診療報酬・介護保険)

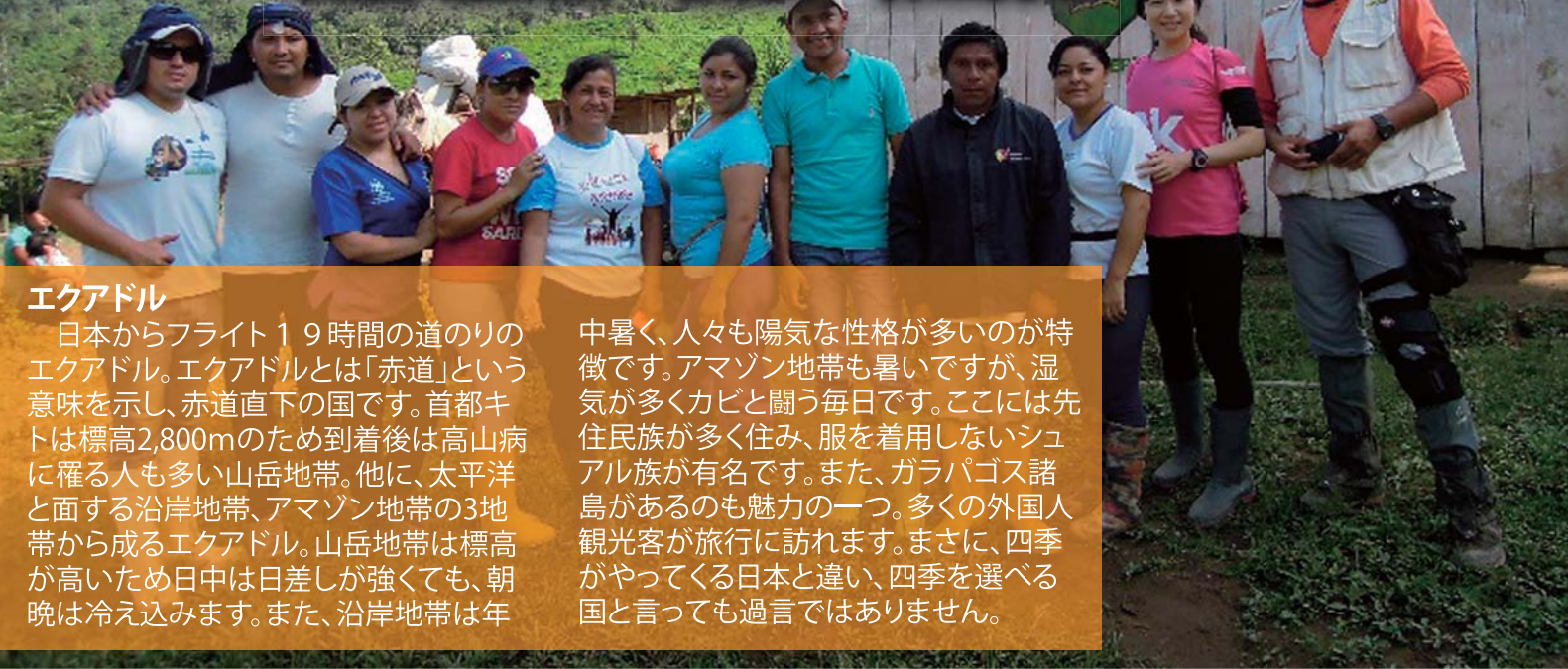
8 訪問歯科診療所からの歯科医療の提供
(義歯の作成・調整、歯及び歯ぐきの疾患等、摂食嚥下機能の低下等)

9 歯科専門職による訪問(各歯科診療所で相談し対応する)
※ 歯科衛生士による専門的口腔ケアは、医療保険・介護保険による提供

日本って独特な国であると知った2年間

～青年海外協力隊の経験から～

公立八鹿病院 看護師 井上美希



エクアドル

日本からフライト19時間の道のりのエクアドル。エクアドルとは「赤道」という意味を示し、赤道直下の国です。首都キトは標高2,800mのため到着後は高山病に罹る人も多い山岳地帯。他に、太平洋と面する沿岸地帯、アマゾン地帯の3地帯から成るエクアドル。山岳地帯は標高が高いため日中は日差しが強くて、朝晩は冷え込みます。また、沿岸地帯は年

中暑く、人々も陽気な性格が多いのが特徴です。アマゾン地帯も暑いですが、湿気が多くカビと闘う毎日です。ここには先住民族が多く住み、服を着用しないシュアル族が有名です。また、ガラパゴス諸島があるのも魅力の一つ。多くの外国人観光客が旅行に訪れます。まさに、四季がやってくる日本と違い、四季を選べる国と言っても過言ではありません。

参加した動機

発展途上国に興味があり、他国と繋がりを持ちたいという気持ちの支えが「看護」でした。世界共通の「看護」なら言葉や文化の壁を超えられ、他国と繋がる事が出来ると思っていました。しかし、そこで気づいたことは「看護」の概念は日本特有なものであるということでした。同時に、「看護」とは「その国の特色ある人格・文化が繁栄されているものである」とも感じました。そう思った、日本とのギャップに触れながらの活動は、わたし自身の視野を大きくさせてくれました。

ボランティア活動

配属先は、インバプーラ県下における慈善財団「パトロナート」の中に位置する巡回



住民の方の健康診断の様子

医療チームです。医師、看護師、歯科医師、理学療法士のスタッフから成る総勢10名、集落や学校を巡回医療車で訪問し、医療を届けます。中心地から車で10分程度のところから、7時間かけて巡回に行くこともありました。道なき道を行くので、道中の揺れは激しく、タイヤがパンクすることもあれば、泥の山道を3時間半かけて登山巡回することもありました。医療器具や荷物は、馬が床ずれを作りながら頑張つて運んでくれます。夜間は川の水で汗を流し、テントで過ごしました。まさに体力勝負。巡回先では、住民の健康チェックを行います。血圧、脈拍、鉄欠乏性貧血の有無、小児は身長、体重から成長状態を把握します。医師の診察後、必要な薬を手渡ししますが、県からの支援により全て無料で提供されます。そのため、多くの住民が医療を求

めて集まってくれました。奥地に行けば行くほど、医療施設が整っていない現状であり、わたしたちの活動は重要なものとなります。また、奥地では、教育が十分でないケースが多いことから識字率が低く、インディヘナが使用されるキチュア語でしか会話が成立しないケースもありました。その際は、現地住民に通訳として協力してもらい活動を行いました。

わたしの要請内容は、巡回医療チームと共に、集落・学校での医療サービスの協力、保健・衛生教育を計画・実施するということです。主な活動として、巡回先での疾病予防・健康増進のための講座、保健・衛生教育を実施しました。エクアドル死因第一位である糖尿病など生活習慣病が目立つため、それに加え、高血圧・鉄欠乏性貧血に対する知識の提供、乳がん自己検診、寄生虫予防に対する手洗い指導、栄養指導を行いました。



集落での巡回



ウイルス感染と寄生虫についてのミニ講義

また、思春期児童に対して命の大切さを伝えるための性教育、地域別に応じた健康教育(チクングニヤ熱)、2016年4月に起きた地震に対する災害支援など、幅広く活動させてもらいました。さらに、巡回先で針刺し事故に遭ったことから、医療廃棄物についての知識不足が浮き彫りとなり、感染勉強会や仕事に対する意識の持ち方など、スタッフに対して勉強会を開催しました。

また、インバブーラ県の地域別における土地と鉄欠乏性貧血に関する調査・研究・発表も行いました。これらは、自らが教育材料を自作しました。識字率の低い住民にも理解してもらえよう、視覚で捉えやすいようイラストを多く用いたり、手洗い指導には片栗粉やイソジン溶液で手洗い後の汚れを目で見て分かるような指導を取り入れました。住民や

学生は、興味を持って傾聴してくれました。その反応からスタッフも興味を持ち、自作の紙芝居や教育材料を使用し、スタッフ自らが教育指導にあたってくれた時は、本当に喜びを感じました。また、帰国後より、巡回医療チームが拡大し、「疾病予防・健康増進チーム」が新たに設立され、わたしの活動してきたことを継続するシステムも確立されたことは、この2年間で報われたように感じ、一番嬉しく感じています。ボランティアは、スタッフや配属先が質高く円滑に活動できるような、影の支えとなれることこそ意味のある活動であると思っています。

困難だった道のり

協力隊として一番困難だったことは、「継続看護」の視点でした。継続看護とは、わたし自身活動終了後もスタッフの疾病予防・健康増進について、



自ら仕事の質を上げて取り組めるというものです。そのため、「スタッフの仕事に対する意識の向上について考え活動してきました。スタッフは、各自業務を抱えているため、疾病予防・健康増進について積極的な関わりをしていない現状でした。しかしながら、巡回医療チームでその活動はとても重要なものだ認識しました。何故なら、医療施設が整っていない集落において、疾病予防が重要となってくるからです。

そこで、その必要性を伝えるために何度もスタッフに呼びかけました。なかなか伝わらない思いに落ち込みながらも、「いつかはみんなに伝わる」と自分を信じ、地道に一人で活動を続けました。それは、他人の姿勢から学ぶ文化のないエクスアドルで、どうスタッフにわたしの活動の必要性を伝えられるか、試行錯誤しながら「我

慢」の時間でした。

外国人のわたしを認めてもらうには、まずは相手のニーズを捉えてそれに答えること、相手を褒めること、専門性をアピールすること、そしてスタッフと苦勞の時間を共有することは効果的であり、その中でも「わたし自身楽しむこと」こそが、思いを伝えられる一番の近道だと学びました。

そして、その思いが伝わるようになったのは活動を始めて一年半にもなる頃でした。振り返ると、そこで重要になったのは「信頼関係の構築」にありました。「この人の言うことなら聞いてやろう」と思うことが出来る背景には、「信頼関係の構築」があるのではないかと振り返ります。感性や文化の違いから、それを構築するためには時間を要しましたが、最後半年は、自分の伝えたいことが自ら伝えられるようになりました。そのプロセスは今後の糧となるのではないかと感じています。

今後について

今後は、遠く異国の地のわたしを2年間に渡り支えてくださった八鹿病院で、少しでも還元できるように日々精進していきます。

また世界において、看護師の立ち位置として感じたことは、専門性に加えマネジメント力が重要となってきます。まだまだ未熟なわたしですが、視点を変えて日本特有である

「看護」と向き合っていきたいと思っています。



ラテンアメリカ農学会での発表



(エクアドル三大都市)クエンカで行われた日本祭りのパフォーマンス

高校生セミナー



8月3日、当院にて「医師を目指す高校生のためのセミナー」が行われました。

このセミナーは、医師の確保、医師不足の解消を目指し養父市と当院が協力し取り組む「やぶ医者プロジェクト事業」で企画されたもので、平成23年度より実施されています。

当院長の谷風医師、産婦人科の松本医師、研修医の清水医師による講演で、将来、医師を目指す高校生の皆さんに「医師」という職業のイメージをより現実

的に考えていただいたほか、フリートークでは、医師を目指すにあたっての勉強方法など、より具体的な質問も投げかけられました。

またその後の医療現場体験では、実際の医療現場をより身近に感じていただくため、手術室や病棟等、施設の見学や、八鹿病院DMATの活動紹介を行い、普段ではなかなかできない経験をしていただきました。

今回参加された皆さんが、一人でも多く自分の夢に向かって進まれることを心より願っています。



公立八鹿病院組合

夏期セミナー

公立八鹿病院組合養成医学生を対象とした夏期セミナーが、8月18日・19日の2日間で開催されました。今年は1年生から5年生までの医学生5名が参加し、外来診療や病棟の見学等を行ったほか、村岡病院での訪問診療では患者さんのお宅を訪問し、実際の地域医療に触れてもらいました。毎年参加の学生からも「参加するたび新しい発見があります」と、大学では学べない経験に刺激を受けた様子でした。

当組合の養成医師として、大学卒業後は八鹿病院にて勤務することになります。セミナー後の懇親会では、地域住民の方や八鹿病院の医師

とも交流し、学生らからは「早く一人前の医師になれるよう、より一層勉学に励みます」と熱意のこもった言葉が聞かれました。八鹿病院を支える医師として、また地域の患者さんのために活躍する医師となれるよう、今後サポートを続けていきます。



養父市地域診断プロジェクト

但馬出身の医療系学生らで作る「但馬ゆかりの医療系学生の集い」による企画の、「養父市地域診断プロジェクト」が8月8日～10日に開催されました。

地域診断とは、各指標の分析や地域の観察を通して、地域が抱える問題、特徴を把握する活動のことを言います。今回は養父市内にて、各種統計データによる調査、医療従事者や地域住民からのヒアリング、まち歩きによるフィールドワーク等が行われ、最終日の報告会では、地域住民へ向け、地域が抱える医療の課題に対する解決策が提案されました。

八鹿病院は活動の拠点として利用されたほか、当院の医師、訪問看護師、訪問栄養士が、地域

や養父市における医療の現状についてヒアリングに答えました。

終了後の参加者に対するアンケートでは、「医療、保健、福祉に関わる方に、これだけ総合的に話を聞けることはこれまでなかった」「これから地域医療に関わろうとする若者のネットワークができてよかった」「等の意見があり、参加者にとって有意義な活動になったようです。



ふれあい看護体験

ふれあい看護体験は、市民のために保健医療福祉施設がドアを開き、見学や簡単な看護体験、関係者との交流などをを行うイベントです。八鹿病院では、例年但馬の高校生を中心に希望された方に希望する職種を体験していただいています。今年度は、8月3日・4日・5日の3日間実施し、109名の参加がありました。体験された職種は、看護師が92名、リハビリテーション23名、検査技師12名、薬剤師16名、放射線技師

5名、栄養士が15名でした。今年度は、八鹿病院組合で実施しているチーム医療についての理解を深めることを目的に、看護は病院・老人保健施設・訪問看護センターでの実践内容を紹介しました。その後、栄養士、薬剤師、検査技師の仕事内容、理学療法士からリハビリの仕事について紹介を行いました。高校生の参加者は、主に進路の選択の参考にすることが目的の一つとしてあるようです。実際に白衣

を着て、患者さんのお世話や医療処置の見学、患者さんとふれあう体験から、看護の仕事への理解や興味につながっていました。終了後は、「命の大切さを学ぶことができた」「より看護師になりたい」と思った「来年も参加したい」という感想をいただきました。今後も市民のために開かれた環境を創ることの一環として、ふれあい看護体験を続けていきたいと思えます。



平成29年度 公立八鹿病院組合 職員募集

募集職種	人数	受験資格	試験方法	受付期間	試験日	結果発表	採用期日
介護支援専門員	1名	介護支援専門員(社会人卒) 昭和52年4月2日以降に生まれた者で免許取得者かつ介護支援専門員としての実務経験1年以上ある者	・筆記等試験 教養試験 作文試験 ・個人面接 (後日、改めて再度面接試験を行う場合があります)		平成28年 11月27日(日)		
薬剤師	1名	昭和52年4月2日以降に生まれた者で薬剤師免許取得者又は免許取得見込みの者	・筆記等試験 教養試験 作文試験 ・個人面接 (後日、改めて再度面接試験を行う場合があります)	平成28年 10月17日(月) ▼ 11月14日(月) ※必着	平成28年 11月28日(月)	平成28年 12月 中旬以降 本人へ通知	平成29年 4月1日 採用予定
給食調理員	1名	調理師(社会人経験者) 昭和52年4月2日以降に生まれた者で調理師免許取得者かつ医療機関入院患者もしくは福祉施設入所者への給食調理経験が1年以上ある者	・筆記等試験 実技試験 作文試験 ・個人面接 (後日、改めて再度面接試験を行う場合があります)		平成28年 11月27日(日)		

受験手続き及び提出書類

- (1) 採用試験申込書(本組合所定用紙、写真貼付)
- (2) 資格免許証の写し
- (3) 学業成績証明書(最終学校) 卒後5年以上経過されている方は免除。
- (4) 受験票送付用封筒 (宛名を明記し、82円切手貼付)
- (5) 試験結果通知用封筒(宛名を明記し、82円切手貼付)

※履歴書(本組合所定用紙)の郵送を希望される方は、返信用封筒(宛名を明記し、82円切手貼付)を同封の上、上記へ請求して下さい。



〒667-8555
兵庫県養父市八鹿町八鹿1878-1
公立八鹿病院人事会計課
Tel 079-662-5555

「八鹿病院ニュース」平成28年7月号の2頁目記載のスタッフ数に誤りがありました。訂正してお詫びいたします。
誤:医師1名 他 計49名 正:病棟医1名 主治医5名 他 計54名

公立八鹿病院 医師修学資金貸与制度



【必須プラン】

医師修学資金 貸与制度

一人あたり
総額 **1,152万円(最大)**
月額15万円(1~4年)・18万円(5~6年)

当院へ一定期間勤務で
全額返済免除

プラス
+

修学
資金

返済
免除

【選べる2つの追加プラン】

入学時特別修学資金 貸与制度

一人あたり
上限額 **1,000万円**
(入学金・授業料等)

当院へ一定期間勤務で
全額返済免除

医師修学一時資金 貸与制度

一人あたり
上限額 **1,000万円**
(入学金・授業料等)

無利息で借入れ可能
返済免除規定なし

最大3,152万円の
サポート！

選べる追加プランは、1つでも2つでも自由に組み合わせて利用出来ます。もちろん、基本プランのみを利用することも可能です。

<修学資金の返済免除の条件は？>

貸与学生は大学卒業後、医師国家試験に合格すると当院の研修医として採用します。2年間の臨床研修後、当組合の医師として勤務していただき、貸与期間と同じ期間勤務された場合は、修学資金の返済を免除します。

※返済免除の勤務年数に満たないで退職した場合は、利息を付し貸与金額の全額返済を求めます。

<誰でも制度が利用できる？>

下記の条件にあてはまる方を対象としています。

- 高等学校を卒業し大学医学部医学科に進学しようとする方
- 修学中の方で大学卒業後、当院で2年間の臨床研修を修了し医師として当組合で勤務する意志のある方。

※制度の利用は申請書類と面接により決定します。

募集人員 2名 (総額3,152万円貸付)
【医師修学資金・修学一次資金(返済義務有)・特別修学資金】

応募資格 平成29年4月に新たに大学医学部課程に入学する者(新1年生)

下記の要件の者

- (1) 平成29年4月現在、大学医学部1年生として在学する者
- (2) 大学卒業後、公立八鹿病院で2年間の臨床研修を修了し、医師として公立八鹿病院組合で勤務する意思のある者。

※なお、貸与学生は、貸与期間中は、当院の医学生研修プログラムに参加すること。

試験日 平成28年12月26日(月)
午後の予定。時間は追って連絡いたします。

受付期間 平成28年10月3日(月)~平成28年12月9日(金)必着

試験会場 公立八鹿病院

試験方法 作文試験・個人面接試験
(後日、改めて再度面接試験を行う場合があります。)
(また、貸与の開始は、正式決定後となります。)

結果発表 試験結果は、平成29年1月中頃に本人へ内定通知します。
正式決定は、大学医学部の合格証明後となります。
また、貸与の開始は、正式決定後となります。
貸与の開始は、平成29年4月20日予定となっています。

お問い合わせ 公立八鹿病院 人事会計課 TEL 079-662-5555

大学卒業
国家試験合格

6年間制度を
利用した場合

臨床研修
2年
4年
勤務

貸与期間と
同じ期間勤務で
返済免除！

※臨床研修後、上限2年間は関連大学や他病院等での研修が可能です。
ただし、勤務期間には換算されません。



医学生修学資金制度
利用者募集しています！

募集要項、受験申込提出書類は、当院ホームページからダウンロードできます。詳しくは担当までお問い合わせください。高い志を持った皆様のご応募をお待ちしております。

URL: <http://www.hosp.yoka.hyogo.jp/>

発行

公立八鹿病院 総務課

〒667-8555 兵庫県養父市八鹿町八鹿 1878 番地 1 TEL. 079-662-5555 (代) <http://www.hosp.yoka.hyogo.jp>

